

外組八十七組之内

中三

一陽香	有明香	秋月香	替松香	三夜香
替一陽香	冬夜香	新月見香	海月香	松虫香

多 9
1338
38



門子多
1398
38



外組香八十七組之内才三

三夜香

松虫香

替松虫香

海月香

秋月香

新月見香

有明香

冬夜香

一陽香

替一陽香

一 麝香

替一麝香

香 脚香

冬 艾香

林 凡香

藤 月香

替 冰虫香

每 月香

三 艾香

冰 虫香

杖 鼓香八十八...

新 青三夜香... 一 麝香...

三 香五種... 一 麝香...

五 香... 待 膏... 一 包... 德... 威...

外 香... 一 包... 德... 威...

十 五夜... 一 包... 德... 威...

十六夜三式 二色三徳三式

外香三式 一色三徳三式

右何事も試す 九色より右を左の如く

三包の造り合せ

待宵 外香一種入 一造り

十五夜三包と 一造り

外香一種と十六夜三包と 一造り

三造り 三徳三式より 一造り 一造り 一造り

包を包ち後造りぬ 包を包ち後造りぬ 九色

三徳三式 外香のち後と 三種同香とぬ

ろくろくろく 山守のきんぎょ 七 初二院
同香を 終り 一種 別香を 待宵多
三種も 同香を 十五夜より 一種
別香を 後二種 同香を 十六夜より
各々の通り 大い紙の書付 出さぬ

南より 直搦り 又南より 魚一丁 乃
下敷の処は 名目あり 附た
待宵斗南たる人 待宵と書
十六夜斗南たる人 十六夜と書
十五夜斗南たる人 有明と書

右名目何と云々其書年一頁取書

おまゝ氏可考の記の面々准知有年

左の二を

待宵
十五夜

三夜香之記
別香
別香

十六夜
十五夜
十五夜

名 十六夜待宵 十五夜 秋月

名 十六夜 十五夜待宵 十六夜

月日 出香 名衆

記録之准

本香... 一夜... 山... 風... 水... 山...

左... 二月... 廿六...

各... 十六... 廿六...

三夜香...

各... 廿六... 廿六...

香... 松虫香...

香四種...

一... 二... 三...

二... 三... 包内一包...

三... 右...

各一斗

一色五斗

右二三の香法おろしへ 出香六包お文柱出
身一六種の内より 二二三の香と何種あり
何種自しと文へ出るとすて 各乘減り
書付おろしむ 不残はほりてあり 廿五斗

歌と一斗書 二斗と南より上の句
と書り身一三斗と南より下の句と書し
余の人より 五斗の如く 松虫と書り身
外より五斗と書り身 二二三の香と試より
半斗 歌の内より 松虫の文字ありあり

其外終可考

一説に古今抄の巻の歌を教向の次

組の半の二二三三四五と一四

五と三包つゝ徳内一包つゝ試

二三の香二包つゝ徳試

十包子お交たあまるや如かしてら

歌の限り歌の意でわん又二三四包

とて松虫の似り所々結り上の

所記多か本字を先に出す其意を

とすも今又面々けをうけては

名を
加ふは式と用ひしは一の字二種
すはるゝ人々の中はよきも悪し
書二香同りるゝ中にも玉つむら
三の香同りるゝ中にも良し悪し同
の香同りるゝ中にも水と書ふの

香同りるゝと諸をぬきと書二色
通ひ二句書るゝ三種もぬき三句書るゝ
今の人々歌一首書るゝに尿香路を
歌の句を書ふとあはれ見今も書るゝ
歌左の心

月日

出香名乘

三ノ下ノ准

二三ノ香南ノ下ノ香
五ノ下ノ四ノ香

林出香

香松上香

香四種

三ノ下ノ香

二ノ下ノ香

一ノ下ノ香

香之... 替松虫香... 試... 一

香四種... 試... 一三三〇

香... 試... 一三三〇

香... 試... 一三三〇

香... 試... 一三三〇

香名表

香... 試... 一三三〇

香... 試... 一三三〇

香... 試... 一三三〇

松虫にて 罨後内一包試

右試香はりて一二の上一包お交二包除
き三の香一包へ松虫の香三包を加く
ハ包にてお交煙出さるる一三三の
香を左試はるる年一松虫を試す

合下中より記録を以て歌一首書年

たのむるに松虫はた燃え三味

古今後人志ん

秋の野はなまきしゆぬ松虫乃

こころをきこくよるるかき

各乗減り用カへるれも松のふ本武

あゝまゝの如く可考方の...

香松虫香記

二松虫 一松虫 三松虫

札 一松虫 二松虫 三松虫 全

札 一松虫 二松虫 三松虫 全

月日香 出香 名来

記録先子准子

多... 香... 方...

香... 香...

... 香... 全...

... 香... 香...

... 海月香... 香...

香四種... 香...

... 離海境... 四色... 包...

... 漸... 出... 右... 同...

... 今... 輪... 右... 同...

ウと清光何處無して一色と傳ふ試

右試三種焼く出香先固一色漸一色今
宵一包合て五色打交焼出て傳合す
す焼く又残る固一包漸一包今宵一包
は清光一包合五色焼出清光の出を以て

限て夫切海柱多るに其清光の香
と香無は強して空焼すは香業也

右五事の内月之會と東用之るを

固に離海境

漸に出雲嚮

今宵一輪満

清光何處無

海月香之記

固今宵固今宵清光

札名 園今 園今 園今 清光 二千里外 全

札名 園今 園今 園今 宵雲 三

札名 園今 園今 園今 清光 曉雲 五

水の音 照月多みをかきおれり
こゝろを秋の文中にうつす

月日 出香 名乗

正江流おつる海よりくまに紙傳と名乗年と下

全の人よみ 香 二千里外と云

初五種 向高多後少まの 曉雲と云

後多 初少まの 宵雲と云

友方等 今と云 山家月と云

一二柱の南と云 木の間月と云

きやの人も

雨金も

今宵斗り美人

三五夜中

清き水高人

新月色

外帯の

金の

二

秋月香

香五種

待宵と

二色徳内

左月と

右月

不知夜

右月

雲の付

三包徳成

兩付

右同

右試終り出香九包あり支た煙を月の香
三種と試合札あり雲雨の三包と
十粒香の一札あり雲雨の三包と

雲の付と雲の付と雲の付と雲の付と雲の付と

右雲の付の後に月の香三種と

右の三包二種の二包と一種の一包と

又月の香の付を月不知の付を

を月不知の付を月不知の付を

中遠のけり 占るる年 雲の香と一点
つる 又文字違の占り 傍魚のりたる
掲 半魚の占り 二占り 占り 占り 占り
ち記の占り 可なり 大の占り

秋月香記

雲 雨 不知夜 雨 雲 雨 不知夜 雨

札 名 月 不知夜 雨 待月 雲 六

札 名 雲 雨 待月 雨 雲 不知夜 雨 秋月

月 日 出香名乘

記録 七 順まのり

何 何 何 何 何 何 六 十 何 何 何

香部 一 香部 一 香部 一 香部 一 香部 一

香部 一 香部 一 香部 一 香部 一 香部 一

香部 一 香部 一 香部 一 香部 一 香部 一

香部 一 香部 一 香部 一 香部 一 香部 一

香部 一 香部 一 香部 一 香部 一 香部 一

香部 一 香部 一 香部 一 香部 一 香部 一

香部 一 香部 一 香部 一 香部 一 香部 一

香部 一 香部 一 香部 一 香部 一 香部 一

香部 一 香部 一 香部 一 香部 一 香部 一

香部 一 香部 一 香部 一 香部 一 香部 一

香部 一 香部 一 香部 一 香部 一 香部 一

香部 一 香部 一 香部 一 香部 一 香部 一

冬月と文付
二色は徳内一色試

右試香三種ありて本香四色を文付
年試と合せたる試と書付しる年記
録は左の名目と一色但本香の如
斗りて落しおひ春夏秋冬の月

ヨク一色名目左の試
全

春月と
朧月と

夏月と
短秋の月と

秋月と
名月と

冬月と
霜夜月と

右のてしるゝ徳名月能す子規模

まゝ年一為江豚のおり月を可是合

たのしき事なる来山野外で月の中を記

新月見香記

短冊月名月 朧月 雲お月

秋冬の月

名 夏月 秋月 春月 冬月

全

各 冬月 夏月 春月 秋月

一

名 夏月 秋月 冬月 春月

法門二試

月日 出香名乘

まはるゝふまき人まきり法門二試

生新... 邊... 度... 年... 月... 日... 試

身... 再... 此... 味... 之... 香... 試

乃... 復... 有... 替... 今... 月... 春... 試

合... 今... 月... 復... 今... 月... 替... 試

子... 復... 明... 替... 今... 月... 替... 試

有明香

內香四種

曙... 今... 月... 復... 今... 月... 替... 試

月... 今... 月... 復... 今... 月... 替... 試

楓... 今... 月... 復... 今... 月... 替... 試

全

嵐いそ 二色いそ 俵いそ 成いそ

右試法にて出香ニ色の内先いそ 始いそ 嗅いそ の香
一色一月の香ニ色と合下ニ色といそ 文合いそ
内ニ色いそ 始いそ 出いそ 香いそ 次いそ 楓いそ の香
一色一嵐の香ニ色一ニ色といそ 内ニ色

元始出香試合いそ 名目いそ 名目いそ

右書付出香いそ 但香二種いそ 名目いそ

右書付出香いそ 名目いそ

晴月いそ 有明いそ の月いそ

月いそ 有明いそ の月いそ

楓花のさき
光楓のさき
さき
おとみちのさき
さき

山風
山風
山風
山風
山風

を二たよふ南うら二点片南うら二点

又名月と合てり月の名後遠の島名

を記取れ香の出を傍せりて出せり

高江の南うら二点片南うら二点

有明香之記

有月
楓花

名
有明の月
有明の月
有明の月
有明の月

名
有明の月
有明の月
有明の月
有明の月

風流 月日 公儀 出香 名乗

まろく くれ 十 寺 八 十 寺 多 けり 風 二 寺

石 二 寺 十 寺 十 寺 十 寺 十 寺 十 寺 十 寺

古月香

入 名 月 寺 今 寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺

寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺

冬夜香

香 四 種

寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺

寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺

寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺

月日 出令 未

きりく 之 人 主 身 一

言 取 各 一

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

冬夜香 水 膠 本 瓶 一 各 一

香 四 種 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

計 出 入 金 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 三 包 一 德 正 成 各 十

亦 各 香 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 出 右 同 出 在 七 七 一

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 右 同 出 一 一 一 一

春より

二色俵内五試

右春香試ありて出香十包ありせり

柱出も十粒ありて一札ありて春香斗

試せりて正のれありて春香出あり

よりて右自取も外別本瓶一各乃

右目たのま

初春より

二春より

三春より

四春より

菘より

干より

五ウ

嵐

六ウ

時雨

七ウ

散

八ウ

鶴

九ウ

女

十ウ

有明

名目説いあれよよはる古武

江の面をうらな合たのち

冬夜香

一三二ウ

止

丸
七

月日
土香名茶

...

一陽香

香四種

四色紙内一包紙

三色紙内一包紙

同紙

春〜〜 一包の儀に成

右儀終りて出香十包お文焼出奉り一に試
し合ふにやうもさる〜 其の申すは試の丸
もや入〜とやう遠の〜 恥〜と 各〜とさう
もさる〜 一人や〜とさる〜 條〜とさる〜

又一の香やさう〜 なる人のやの一の文より
丸と付て取と題ま〜 板江の由〜と各
たの〜

一陽香之化 ヲ
ウ一三二二三三二二二

札

札

二一ニニニニウの三〇 一

二一三ウニニウ 全

月日 出香 名来

一の香一様 遠い一日を過ぎし 此香の味

論より及 記原 左に 准る 當年 十の 文 字 あり

花の香 替一 陽香 香りの 花の 香りの 花の

二香 四種 花の 香りの 花の 香りの 花の

景物の 花の 香りの 花の 香りの 花の

花の 香りの 花の 香りの 花の 香りの 花の

花の 香りの 花の 香りの 花の 香りの 花の

札 香 一色は徳に成

右十柱香の通る十包は貞煙出さず但

最初の出香は札を入らずに後中まで待つ

二番目の出香は札を入らずに二番目

の香の十柱香の通る先何れかの

札を入らずに大番目から常の成り札

の通る札を入らずに十番目から始の一

出香は残り札を入らずに始は一の香を入

置時より各香を遠くより又一二三の香を

は一二と不見に札を遠くより入れ大番目を

